



元気っ子

No.265 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

「第101回全国高等学校野球選手権大会」

今回は私がかれこれ10年以上も通い続けて観戦している、夏の全国高校野球選手権大会について、今大会について振り返ってみたいと思います。令和になって一回目となる今大会ですが、まず出場49代表校を見てみると、公立高校の健闘が目立ち、14校の出場となりました。その中には米子東や静岡、佐賀北といった進学校や45年振りに夏の切符を勝ち取った秋田中央、15年振りに復活した古豪広島商などです。そして今年は初出場校が少なく話題になりましたし、私学は言わずもがなの名門がズラリと揃っておりました。

そして注目の組合せ抽選ですが、これは毎年起こってしまうことではあるのですが、一回戦から優勝候補と目されるような名門同士の対戦です。今年がこれが大会六日目の第二試合に実現しました。2015年に小笠原投手（現・中日）を擁して全国制覇の門馬監督率いる東海大相模と昨夏の準々決勝で金足農にツーランスクイズでサヨナラ負けを喫した近江の対戦です。この時の近江バッテリーは2年生だった林投手と有馬捕手ですが、再び甲子園に戻ってきてくれました。組合せ抽選会は大阪のフェスティバルホールで行われるのですが、こういった組合せが決まると会場がザワつきます。この他にも一回戦の好カードはいくつもあったのですが、上記のものが一回戦では一番ザワついたのではないのでしょうか。二回戦以降では、これは未遂に終わってしまったのですが、明德義塾が智辯和歌山に勝っていたら「明德義塾一星稜」という高校野球ファンでなくてもザワついてしまいそうな対戦が実現しそうになり、ファンを楽しませてくれました。

今大会は例年と比較してあまり大差のつくゲームが少なく、僅差で争うゲームが多く見られた印象でした。特に名門同士の対戦となると鍛え上げられているチームなのでミスも少なく僅差になりやすい傾向にあります。一回戦、二回戦で言えば「習志野 5-4 沖縄尚学」や「花咲徳栄 3-4 明石商」「智弁学園 8-10 八戸学院光星」などが僅差の面白いゲームでした。そして私が思う今大会のベストゲームは三回戦の「智辯和歌山一星稜」戦です。タイブレークにまでもつれ込んだ投手戦になったこの試合ですが、今大会ナンバーワン右腕の星稜奥川投手と強力打線がウリの智辯和歌山との激突になりました。最後は星稜福本選手のサヨナラスリーランにより4-1で星稜の勝利に終わったのですが、この日の奥川投手のピッチングは今まで見てきた高校生投手の中でも五本の指に入る投球内容でした。決勝戦は履正社と星稜の対戦で5-3のスコアで履正社の優勝（昨夏は大阪桐蔭優勝なので大阪勢夏2連覇！）に終わりましたが、星稜奥川投手が智辯和歌山戦で見せた投球をこの日にできていれば（決勝戦は明らかに球が走っていなかった）、もしかしたら・・・とったりもする大会でした。

よくこんなことを聞かれます、「どこの学校を応援？」実はいつもどこの高校をという目線では見ていません。ただひたすらに「好プレー」「ナイスゲーム」を心から楽しんでいます。高校野球の因縁、シンクス、再会などそういうものに発見や新たな興奮があるのです。そして高校球児にとっては「一度しかない特別な夏」その夏に向かって、どうぞ頑張ってください、輝いて欲しい、そう願ってやみません。

まだまだ書き足りない部分もあるのですが、尺が足りませんでした。保護者の方で、もっと続きが聞きたい方は是非お声掛け下さい！そして「ながさわ保育園高校野球観戦部」を今後ともどうぞよろしくお願い致します。

